

# OpenManage Management Pack for vRealize Operations Manager バージョン 1.2 インストール ガイド

## メモ、注意、警告

 **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

<b>章 1: はじめに</b> .....	<b>4</b>
前提条件.....	4
サポートマトリックス.....	4
<b>章 2: OMIVV の設定</b> .....	<b>5</b>
<b>章 3: vRealize Operations Manager 用 OpenManage Management Pack バージョン 1.2 のインストールまたはアップグレード</b> .....	<b>6</b>
OMIVV インスタンスの追加.....	6
OMIVV インスタンスの削除.....	8
<b>章 4: トラブルシューティング</b> .....	<b>9</b>

# はじめに

vRealize Operations Manager 用 Openmanage Management Pack を使用すると、VMware vCenter 用 OpenManage Integration (OMIVV) 4.0 以降で管理する Dell EMC PowerEdge サーバおよびシャーシの正常性状態を監視し、重要なメトリクスを分析できます。

トピック：

- [前提条件](#)
- [サポートマトリックス](#)

## 前提条件

以下は、vRealize Operations Manager 用の OpenManage Management Pack をインストールするための要件です。

- VMware vRealize Operations Manager (vROPS) バージョン 6.5 以降がインストールされていることを確認します。
- vRealize Operations Manager 用 OpenManage Management Pack を使用するには、OMIVV 4.0 以降がインストールされている必要があります。
- Dell EMC ホストを管理するための OMIVV ライセンスを持っていることを確認します。OMIVV ライセンスについては、*OpenManage Integration for VMware vCenter Quick Installation Guide for vSphere Web Client* を参照してください。
- 500 台を超えるサーバを管理する場合は、vROPS 構成が特大 (6.5 以上) に設定されていることを確認します。

**メモ:** OMIVV が大量のサーバ (>100) を管理している場合、vROPS の **収集間隔 (分)** は 30 に設定することをお勧めします。

- Dell EMC 管理パックを使用してホストを管理するには、ホストが Dell EMC OMIVV 接続プロファイルの一部であることを確認します。
- 第 12 世代および第 13 世代 PowerEdge サーバの正確な管理と監視を行うには、iDRAC 2.40.40.40 以降のファームウェアバージョンを使用することをお勧めします。
- 第 14 世代 PowerEdge サーバの正確な管理と監視を行うには、iDRAC 3.00.00.00 以降のファームウェアバージョンを使用することをお勧めします。

## サポートマトリックス

表 1. サポートマトリックス

vROPS	vRealize Operations Manager 用 OpenManage Management Pack	OMIVV	PowerEdge サーバ世代	サポートされているシャーシ
6.3、6.4	1.0	4.0	12、13	M1000e、FX2s、VRTX
6.3	1.1	4.0	12、13	M1000e、FX2s、VRTX
6.4		4.1、4.2	12、13、14	M1000e、FX2s、VRTX
6.5				
6.6	1.2	4.2	12、13、14	M1000e、FX2s、VRTX
6.5、6.6、6.7		4.3	12、13、14	M1000e、FX2s、VRTX、MX7000
6.5、6.6、6.7、7.0				

**メモ:** OMIVV 4.3 では、Dell EMC OpenManage Enterprise-Modular Edition バージョン 1.00.01 を使用することをお勧めします。

## OMIVV の設定

vROPS を設定するには、OMIVV で拡張モニタリングのサポートを有効にする必要があります。

拡張モニタリングのサポートを有効にするには、次の手順を実行します。

1. OMIVV 管理コンソールを起動するには、ウェブブラウザを起動し、**https://<Appliance IP>** または **<Appliance Hostname>** を入力します。
2. パスワードを **ログイン** フィールドに入力します。
3. 左ペインで、**アプライアンス管理** をクリックして、**拡張モニタリング** セクションまでスクロールダウンします。
4. **拡張モニタリング** セクションで、**編集** をクリックし、次に **有効** または **無効** をクリックして拡張モニタリングのサポートを有効または無効にします。拡張モニタリングのサポートはデフォルトで無効に設定されています。
5. vRealize Operations Manager 用 OpenManage Management Pack で SNMP アラートをサポートする場合は、**SNMP トラップモニタリング** が有効になっていることを確認します。これで、ユーザーはサーバやシャーシの稼働状態をリアルタイムでモニタリングできるようになります。

# vRealize Operations Manager 用 OpenManage Management Pack バージョン 1.2 のインストールまたはアップグレード

vRealize Operations Manager 用 OpenManage Management Pack バージョン 1.2 をインストールまたはアップグレードするには、次の手順を実行します。

1. [Dell.com/Support/Home](https://Dell.com/Support/Home) に移動します。
2. すべての製品から **選択** セクションで、**ソフトウェアとセキュリティ** をクリックします。
3. ソフトウェアとセキュリティ グループボックスで、**仮想化ソリューション** をクリックします。
4. 製品をダウンロードするには、必要な製品バージョンをクリックします。  
**Product Support (製品サポート)** ページが表示されます。
5. リリースノートと OpenManage Management Pack .pak ファイルで構成される自己解凍型の .exe ファイルをサポートサイトからダウンロードします。
6. .exe ファイルを解凍します。
7. **vRealize Operations Manager** コンソールを **https://<IP または Hostname または FQDN>** として開きます。
8. **vRealize Operations Manager** の左ペインで、**管理 > ソリューション** をクリックします。
9. ソリューション タブで、**+** をクリックします。  
ソリューションの追加 ページが表示されます。
10. .pak ファイルの場所に移動するには、**参照** をクリックします。
11. **OpenManageAdapter** .pak ファイルを選択します。
12. **アップロード** をクリックします。
13. 続行するには、**次へ** をクリックします。  
**Dell エンドユーザーライセンス契約 (EULA)** が表示されます。
14. **契約条件に同意する** を選択し、**Next (次へ)** をクリックします。
15. **終了** をクリックします。

これで、**vRealize Operations Manager 用 OpenManage Management Pack** が **vRealize Operations Manager** のソリューション タブに一覧表示されます。

**メモ:** 管理パックのインストールが完了するまで、ソリューション UI がしばらくの間 (約1分ほど) フリーズすることがあります。

**メモ:** ソリューションの詳細 タブで vRealize Operations Manager 用 OpenManage Management Pack のバージョンを 1.0 から 1.2 にアップグレードする場合は、アダプタの各インスタンスで **収集の停止 > 収集の開始** をクリックする必要があります。

**メモ:** インストールまたはアップグレードした後、デルのダッシュボードおよびデルのカスタムアイコンを表示するために、vRealize Operations Manager 用 OpenManage Management Pack に再度ログインする必要があります。

## トピック :

- [OMIVV インスタンスの追加](#)
- [OMIVV インスタンスの削除](#)

## OMIVV インスタンスの追加

ホスト名、または FQDN あるいは IP アドレスのいずれかと OMIVV と vROPS の適切なログイン資格情報を入力して、アダプタインスタンスを追加していることを確認します。

アダプタインスタンスを追加するには、次の手順を実行します。

1. ブラウザで、**vRealize Operations Manager** ユーザーインターフェースを起動します。
2. 管理者としてログインします。
3. **管理**→**ソリューション** をクリックします。  
ソリューションの**管理**画面が表示されます。
4. **vRealize Operations Manager 用 OpenManage Management Pack** を選択して、**設定** をクリックします。
5. ソリューションの**管理 — OpenManage vRealize Operations Management Pack** 画面で、次の手順を実行します。
  - a. インスタンス設定：
    - i. **表示名** フィールドで、アダプタの名前を入力します。
    - ii. **説明** フィールドに説明を入力します。
  - b. 基本設定：
    - i. ホスト名、または OMIVV インスタンスの FQDN、あるいは IP アドレスを入力します。
    - ii. ログイン資格情報を追加するには、**+** をクリックします。
    - iii. OMIVV で認証するための適切な管理者（デフォルトのユーザー名）の資格情報を vROPS ユーザーの詳細と共に提供します。  
**メモ:** vROPS には管理者権限が必要です。
    - iv. **OK** をクリックします。
    - v. 入力した設定を検証するには、**テスト接続** をクリックします。  
**メモ:**  
拡張モニタリングが有効になっているか確認します。有効でない場合は、**Unable to establish a valid connection to the target system.Extended Monitoring is disabled.Enable Extended Monitoring in OMIVV admin portal(ターゲットシステムへの有効な接続を確立できません。拡張モニタリングは無効です。OMIVV 管理者ポータルで拡張モニタリングを有効にしてください)**というエラーメッセージが表示されます。詳細については、「[OMIVV による設定](#)」を参照してください。
  - c. 詳細設定：
    - i. **詳細設定** を展開し、リストから collector を選択します。
    - ii. この値を **True** に設定し、自動検出を使用することをお勧めしています。
    - iii. **設定の保存** をクリックします。
    - iv. **閉じる** をクリックします。
 vRealize Operations Manager 用 OpenManage Management Pack が OMIVV サーバインスタンスからデータの収集を開始します。  
**メモ:**  
OMIVV インスタンスを追加すると、サーバとシャーシ用のデータとアラートが3回のデータ収集サイクル後に投入されます。デフォルトではデータ収集サイクルは5分ごとに実行されます。  
**メモ:**  
物理サーバと ESXi ホスト間に関係を構築し、SNMP アラートをポストするには、vROPS の資格情報が必要です。  
**メモ:**  
vROPS の無効な資格情報を入力すると、**Unable to establish a valid connection to the target system.Check that vROPS credentials are correct or not (ターゲットシステムへの有効な接続を確立できません。vROPS 資格情報が正しいか確認してください)**というエラーメッセージが表示されます。
6. ホームページに移動し、vROPS の旧バージョン（バージョン 6.5 以前）の場合は、**ダッシュボード**リスト ドロップダウンメニューから **OpenManage** **ダッシュボード** を選択します。vROPS 6.6 以降の場合は、**ダッシュボード** に移動すると、**OpenManage** **ダッシュボード** が表示されます。  
OpenManage のダッシュボードが表示されます。  
**メモ:**  
OMIVV の IP が変更されている場合は、**ソリューションの管理** ウィザードで IP をアップデートします。  
**メモ:**  
既存の OMIVV インスタンスを別の OMIVV と交換する場合は、既存の OMIVV インスタンスを削除して新しい OMIVV インスタンスで設定します。

# OMIVV インスタンスの削除

1. ブラウザで、**vRealize Operations Manager** ユーザーインターフェースを開きます。
2. 管理者としてログインします。
3. **管理**→**ソリューション** をクリックします。  
ソリューションの**管理画面**が表示されます。
4. **Management Pack** ソリューション をクリックします。
5. **OpenManage vRealize Operations Management Pack** を選択し、**設定** をクリックします。  
アダプタインスタンスのリストが表示されます。  
**i** **メモ:** すべてのアラートをクリアしてから、OMIVV アダプタインスタンスを削除してください。
6. 必要なインスタンスを選択し、**削除** をクリックします。  
**i** **メモ:**  
インスタンスの削除後に OMIVV で拡張モニタリングを無効にできます。  
**i** **メモ:** OMIVV で管理されるサーバとシャーンの数によっては、削除に数分かかることがあります。

## トラブルシューティング

- vRealize Operations Manager 用 OpenManage Management Pack をバージョン 1.0 から 1.2 にアップグレードしてから、HDD リソースのメトリクスが表示されません。
  - vRealize Operations Manager 用 OpenManage Management Pack をバージョン 1.0 から 1.2 にアップグレードした後、正しい HDD メトリクスを反映するには、アダプタインスタンスの **収集を停止** してから **収集を開始** する必要があります。複数インスタンスの場合は、すべてのアダプタインスタンスで同じタスクを実行する必要があります。
- vRealize Operations Manager 用 OpenManage Management Pack をバージョン 1.0 から 1.2 にアップグレードしてから、HDD の履歴データが表示されません。
  - vRealize Operations Manager 用 OpenManage Management Pack をバージョン 1.0 から 1.2 にアップグレードすると、HDD の履歴データは使用できなくなります。これは想定どおりの動作であり、最新のアップグレードでは、アダプタが HDD と SSD のデータを個別に提供します。ただし、履歴データは SSD のみで使用できます。時間アダプタが更新されるため、HDD メトリクスが新たに作成されます。
- 新しいアダプタインスタンスを作成して設定した後で、ファームウェアメトリクスを確認できません。
  - ファームウェアカタログが更新されても、ファームウェアメトリクスの収集は行われません。OMIVV でインベントリを再度実行し、次の収集サイクルの後でメトリクスをチェックする必要があります。
- アダプタインスタンスを削除すると、不明な状態のリソースが表示されます。
  - アダプタの設定されたインスタンスを削除すると、インベントリビューにサーバとシャーシの古いインスタンスが不明な状態で表示されることがあります。そのようなコンポーネントはインベントリエクスプローラのページから削除します。
- アダプタインスタンスを削除し、新しいインスタンスを作成して同じ OMIVV で設定しましたが、今度はウィジェットにデータが設定されません。
  - データを設定するには、ダッシュボードでウィジェットを編集し、変更を加えずに保存します。設定の詳細については、『vRealize Operations Manager 用 OpenManage Management Pack バージョン 1.2 ユーザーズガイド』を参照してください。
- 稼働状態が「不明」と表示される Dell EMC サーバストレージコントローラがあります。
  - オンボードコントローラ、6 GBps SAS HBA、およびソフトウェア RAID に対しては、リアルタイムモニタリングはサポートされていません。そのため、稼働状態は「不明」と表示されます。